

タンチョウやガン類の生息地分散に資する『道央都市圏におけるエコロジカル・ネットワーク形成と経済活動循環』の基盤づくり

イベントの 延べ参加者数	195 人
助成活動がメディア に掲載された回数	5 回
活動の全体目標 に対する達成度	85%



遊水地周辺の農地の食害を調査

◆成果と工夫したポイント

●成果

- ・住民団体の活動も認知度が高まり、会員数も 80 名以上を維持し、賛同者の輪が広がった。
- ・3 年の活動を通じ地域の合意形成もはかられ、次年度より、国も交えたタンチョウとの共生に向けた検討が始まることとなった。

●工夫

児童向けイベントを実施し、親世代への PR や、教育面での重要性、将来世代のためのまちづくりを訴えた。

課 題

千歳川流域に整備される 1,000ha 強の遊水地を、タンチョウ等の希少鳥類の生息環境の創出や、地域資源として活用し、環境と経済が両立した地域づくりへと活かす。

目 標

- ①自然再生や地域振興を主体的に検討する自治体や市民団体の出現。
- ②商品販売や広報、キャンペーン等を想定した企業との連携。
- ③自治体や市民団体、企業等の取組みを応援する有識者や行政機関のネットワーク確立。

活動内容

- ・タンチョウとの共生に向け、生息環境の確認や農家との意見交換のため十勝への視察を実施。また、遊水地や農地への野鳥の飛来状況を調査し、報告会を 2 回開催。新聞掲載を通し、食害を懸念する住民の不安解消に努めた。
- ・児童対象の遊水地でのイベントを開催し、12 名の参加者に感想文を書いていただき、普及啓発のため 11 月に開催した 150 名参加のシンポジウムの際、ステージで発表をしたり、展示をし、タンチョウとの共生を訴えた。

達成できなかったこと

対外的 PR や活動の持続性のためにも、企業との連携体制を確立しなかったが、取組みに反対する地区との合意形成の確立に優先的に取り組んだため達成できずに終わった。

今後の展望

千歳川流域は、他に 5 箇所遊水地整備が進行しているので、長沼町以外の地域へも取組みを波及させていきたい。



シンポジウムの中で
タンチョウに来てほしいと
訴える地域の児童